



酒 米の自社生産で農業参入 亀萬酒造の農業参入に伴う協定締結式

6月12日(月)、亀萬酒造(資)と町が「農業参入に関する協定書」を結びました。これまでの酒米の実証栽培を踏まえ、ことしから法人として農業参入。この協定により、酒米づくりを通じて地域の農地保全に貢献することなどが期待されます。竹田珠一代表は「地域と連携しながら町の農業発展に尽力したい」と今後の展望を語りました。



↑町と協定を結ぶ亀萬酒造(資)の竹田珠一さん・瑠典さん

宿 泊できる屋外アート作品 《入魂の宿》宿泊受け入れ

6月16日(金)～26日(月)、大型屋外作品《入魂の宿》の宿泊を期間限定で受け入れました。石牟礼道子さんの文学に着想を得た柳幸典さんが旧赤崎小学校のプールとその周辺を改修して生まれた作品です。宿泊料金は1部屋1万円(税込)。次回の宿泊時期は未定ですので、最新情報は右QRコードから確認してください。



↑アートの魅力に浸りながら非日常を味わえます

↓水俣芦北地域の印象や今後の目標を話す諸橋さん



水 俣芦北の新たなつながりを ISUI ブレイクスルーナイト

6月7日(水)、水俣芦北の若手経営者などで地域課題の解決に取り組む「イスイブレイクスルー」主催のイベントがつなぎ百貨堂で開かれました。情報誌「水俣食べる通信」の編集者・諸橋賢一さんなど3人をゲストに迎え、これまでの活動への思いを発表。主催者からは「同地域の魅力的なヒトモノコトに出会う場を今後も設けていきたい」と話しました。

↓メンバーは「多くの人に牛乳を飲んでほしい」と話していました



父の日「牛乳を」消費拡大へPR 父の日に牛乳を贈ろうキャンペーン

6月15日(木)、ホワイテ酪農業協同組合から町へ牛乳が贈られました。父の日の「ちち」と牛乳の「ちち」の語呂を合わせた「父の日に牛乳を贈ろう！」キャンペーンは、県産の牛乳や乳製品の消費拡大を目指して毎年行われています。酪農家の皆さんが搾ったおいしくて体にも良い牛乳をこの機会に飲まれてはいかがでしょうか。

未来に豊かな海をつないでいく 海ごみゼロフェスティバル

5月27日(土)、赤崎ふれあい広場で海ごみゼロフェスティバルが開かれ、B & G海洋クラブの小・中学生9人が参加しました。約30分かけて海岸に漂着していた漁業関係のロープ、ペットボトル、発泡スチロールなどのごみを回収。その後、大泊地区住民とグラウンドゴルフを通して、世代間交流を楽しみました。



↑漂流したごみなどを拾う海洋クラブ員

被災された住民におもてなし 長期避難世帯のお帰りなさい会

令和2年7月豪雨の被災者が住んでいた男島仮設団地が閉鎖したことに伴い、生協くまもと家庭会などのスタッフが6月3日(土)、平国コミュニティセンターでお帰りなさい会が開かれました。振る舞われたのはたこ焼きやひき立てのコーヒーなど。グラウンドゴルフ大会や健康相談などもあり、会話を弾ませながら楽しいひとときを過ごしていました。



↑被災者にたこ焼きを振る舞う生協くまもとの皆さん



↓水俣芦北広域消防本部初の女性救急救命士・溝部さん



人の心に寄り添える救急救命士に 水俣芦北初の女性救急救命士

水俣芦北広域消防本部に初の女性救急救命士が誕生しました。溝部萌子さん(水俣市)が3月の国家試験に合格。救急救命士は、医師の指示を受けながら救急救命士のみが認められた器具を使用したり、点滴をするなど、一般の救急隊員にはできない重要な任務を担います。溝部さんは「傷病者の心に寄り添える救命士になりたい」と意気込みを語りました。

↓サラダ玉ねぎを瞬間冷凍する参加者



津 奈木のおでんを作ろう スローフード料理講習会

6月2日(金)、農業就業改善センターと津奈木漁協で、スローフード料理講習会が開かれ、9人が参加しました。今回のテーマは「サラダ玉ねぎの長期保存」。森の新聞社・森千鶴子さんと県芦北地域振興局の狩集由美さん指導のもと、サラダ玉ねぎを瞬間凍結機で冷凍保存しました。今後は津奈木の食材をふんだんに使ったおでんを作る予定です。